

<認知症対応型共同生活介護用>

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670103193
法人名	社会福祉法人 松恵会
事業所名	グループホーム ほのぼの
訪問調査日	平成 21 年 4 月 30 日
評価確定日	平成 21 年 5 月 15 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年5月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4670103193
法人名	社会福祉法人 松恵会
事業所名	グループホーム ほのぼの
所在地	鹿児島市西別府町1801番地 (電話) 099-283-7112

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号
訪問調査日	平成21年4月30日
評価確定日	平成21年5月15日

【情報提供票より】(平成21年3月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	7 人
利用定員数計	9 人
常勤 7 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 7 人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	9,000円 (管理費)	
敷 金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(3 月 31 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 75 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田上記念病院 西歯科
---------	------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは鹿児島中央駅より松元・伊集院方面に車で15分の小高い場所にある。隣接地に母体法人が運営する特別養護老人ホームや関連グループの医療機関が存在し、特養の看護師や病院の医師・看護師との連携により医療面での支援体制が充実している。管理者は栄養士でもあり、季節の食材を使い、利用者との調理の仕方や味見、盛り付けなど一緒に話し合いながら一人ひとりの能力に合った関わり方を大切に支援している。職員と利用者はお互いに思いやりながら一緒に寄り添い過ごしているほのぼのとした雰囲気のホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での改善課題の①”地域とのつきあい”では、地域とのつきあいを活発化させる取り組みの勧め。②”家族等への報告”では、それぞれのご家族に合わせた報告の検討であった。2項目について管理者と職員で改善目標と改善計画を作成され、計画にそって取り組みをされているが①について一部実践できないものがあり継続を要する課題が残っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員はサービス評価の必要性を理解しており、自己評価作成の取り組みは3カ月前より月1回のスタッフ会議で、昨年の自己評価を参考にしながら項目別に話し合い、それぞれが日々のケアについて振り返りをしながら話し合い作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議は利用者、家族、地域代表、地域包括支援センター職員、管理者、職員で2カ月に1回開催しホームの状況・活動報告を行っている。外部評価報告、20年度の反省、感染症についてなど毎回テーマを決めて話し合いが活性化できるように工夫している。ホームは運営推進会議を通じて徐々に地域との情報の共有化が図りやすくなり、地域の人にグループホームの存在や機能を理解してもらえるようになってきた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族の面会時、電話での報告時、年2回の家族会、運営推進会議では意見や要望を聞くように努めている。直接言えない場合も意見箱や苦情相談窓口で対応している。意見や要望については職員で話し合い共有している。苦情に関しては同一法人の特養の施設長や理事が責任者として対応し運営へ反映している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームの周辺は同一法人の介護施設や関連の医療機関、学校の他は民家も殆どなく、日常的な地域との交流は難しい環境であるが、移動販売車での買い物、諏訪神社の清掃、同一法人施設の行事への参加、デイサービス利用者との交流、中学校の職場体験、ヘルパー実習生の受け入れをしている。地域との連携はより活発な交流が行われるよう工夫していただきたい。</p>

2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	平成15年開設時に作られ、いっしょに寄り添い、人間としての尊厳を大切にしたい理念である。グループホームが地域密着型サービスに移行して職員と話し合い活動目標として地域との暮らしを掲げているが理念の変更にまでは至らない。	○	地域密着型サービスの状況に合わせ、地域住民との交流に向けた取り組みに対して、全職員と共に現状に合った理念に作り変えていかれることを望みます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時には理念の唱和を行い、玄関、スタッフルーム、台所に理念をかかげ、職員間で共有化を図ると共に実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの周辺は同一法人の介護施設や関連の医療機関、学校の他は民家も殆どなく日常的な地域との交流は難しいが、移動販売での買い物、諏訪神社の清掃、施設の行事に出かけている。デイサービス利用者との交流、中学校の職場体験、ヘルパー実習生の受け入れなど交流している。	○	利用者が今までの地域での生活の継続ができるように、運営推進会議の行政や地域代表等のメンバーの力を借り、アイデアを出し合って地域との交流支援を深めていただきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は3ヶ月前から職員全員で会議の中で項目にそって、ケアの振り返りし、今後の取り組み方について話し合いながら作成している。昨年の外部評価改善点については改善目標と改善計画を作成しているが一部実践できないものがあった。	○	外部評価の具体的な改善計画の取り組みをなされているが、地域行事への参加で一部実践までに至らないものがある。実践に活かされることを期待します。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は利用者、ご家族、地域代表、地域包括支援センター職員、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。ホームの状況・活動報告を行うほか、毎回テーマを決めて話し合いが活発に行えるように工夫している。ホームは運営推進会議を通じ徐々に地域との情報の共有化が図りやすくなってきている。		

鹿児島県 グループホーム ほのぼの

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口には諸手続きに出向き、ホームの状況を伝えたり、行政から情報提供をもらうなどサービスの向上に活かしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	ご家族には法人発行の園だよりの他、毎月「ほのぼの便り」で行事や個人の暮らしぶり、職員異動など報告している。遠方のご家族には定期的に電話し、毎月金銭出納のコピーも送付している。近くのご家族には面会時に金銭出納の確認をしてもらい暮らしぶりを話すなど個々に合わせた報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族との面会時、電話での報告時、年2回の家族会には意見や要望を聞くように努めている。直接言えない場合も意見箱や苦情相談窓口で対応している。意見や要望については職員で話し合い共有している。苦情に関しては同一法人の施設長・理事が責任者として対応し運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は利用者と職員が馴染みの関係を保つことを重視し、配置異動は最小限に抑える努力をし、管理者は職員の離職を抑えるために、職員は経験者を採用し、職員が働きやすいように職員の長所や経験を活かすよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は法人の毎月の研修計画にそって段階に応じた必要な研修に参加し、月1回スタッフ会議でスキルアップ研修をしている。新人職員については入職時のオリエンテーションの他、入職後1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月毎、新人職員と管理者の業務評価表を作成し新人育成をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県及び市のグループホーム連絡協議会に加入し、職員研修会や管理者研修会に参加し同業者との情報交換が行われている。しかし、限定職員の参加のみである。	○	特定の職員だけでなく、全職員を地域の同業者と交流する機会を計画され相互訪問、勉強会活動を通じ職員のサービスの質を向上できるように図っていただきたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居者の多くは隣接のショートステイやデイサービスの利用者であり、早い段階で職員は顔を出し、顔馴染みになっている。入居前はホームを見学してもらい、ホームの雰囲気に馴染んで入居している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が人生の先輩であるという考えを共有しており、利用者の得意な料理を学んだり、昔の生活話を聞いたり、方言を教わったり、声かけを行いながら喜怒哀楽を共感できるように働きかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者と日常のかかわりの中で会話や態度などからそれぞれの思いや意向の把握をしている。ご家族からも面会時には情報をもらうようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の希望をもとに、家族の面会の都合に合わせて、管理者、担当職員で担当者会議を行っている。かかりつけ医の意見や関係者の意見を反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎週火曜日にひとりの利用者についてケースカンファレンスを行っている。3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月に1回定期的に介護計画の見直しをしている。計画期間の途中であっても状態の変化が生じた場合は随時見直しを行い新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同一法人の特養、デイサービスの看護師の協力をもらい、協力病院と連携しながら定期受診を行い、急変時の往診や点滴を受けるなど医療面の支援が充実している。入院した場合も早期退院に向けて情報交換を行い、通院介助の必要な利用者には家族の状況に応じ柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どのかかりつけ医は協力病院である。本人や家族が希望するかかりつけ医がある場合は継続し医療が受けられるよう支援し、緊急の場合を考慮し協力病院で定期健診を実施し適切な医療が受けられるようにしている。。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合や終末期についての対応について口頭による説明をしている。開設からの入居者も高齢化し、ホームとしては最終的にできる介護を検討中である。	○	重度化や終末期に向けた対応方針について入居時の口頭だけによる説明だけでなくホームの方針を検討され文書化し、ご家族には文書による説明を行い同意をもらうことを望みます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報に関する書類は事務所に保管し適切に管理されている。管理者は職員と利用者の排泄・入浴時の羞恥心への配慮やプライバシーを損なう言葉かけ、入室時のノックなど適切な対応について常に話し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	声かけしながら本人が望む過ごし方を優先し、それぞれが工作、散歩、お化粧、読書など好きなことをしながら、その人のペースで過せるように支援をしている。ホームでは月に1回個別処遇を行い、一人の人がその日を外で好きなように過ごせるように付き添って出かけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理法を問いかけたり、盛り付けや配膳など得意な出番の声かけをしながらみんなで楽しい食事になるよう支援している。誕生会ではその月の誕生者の好物をメニューに取り入れ喜ばれている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外は毎日入浴支援をしている。毎日のバイタルチェックで入浴の判定をしているが、体調の悪い人には清拭に変更したり、風呂嫌いな人にはタイミングをみて声かけをし気持ちよく入浴してもらえるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作り、掃除、洗濯物の整理、タオルたたみ、ちり紙折、花瓶の水かえ、野菜採りなど得意な役割をしてもらい、買い物、ドライブ、レクリエーション、誕生会、行事活動など生活にメリハリを持って楽しんでもらうよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	マッサージ機の利用のため隣接施設のデイサービスに出かけたり、ホームの畑の野菜・花作りの指導や見学、庭の草取り、移動販売車への買い物、玄関横のベンチでお茶を飲むなど天気の良い日は外で気持ち良く過ごす支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。玄関の引き戸が開くと優しい鈴の音が聞こえ外出しようとする利用者に職員は寄り添って見守りを行っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接の特養と同時に消防署立会いで年4回の避難訓練を行っている。訓練の際は職員と入居者でグループホーム自体の避難誘導訓練をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理者は栄養士でバランスのとれた献立になっている。嗜好の把握、食事形態、カロリーについては個々に応じた支援がされ、食事や水分摂取量不足には確保の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日中の殆どの時間を過ごす食堂兼リビングのホールには鯉のぼり、兜、花が飾られ季節感がある。利用者が落ち着けるように畳やソファの居場所があちこちに設置されている。日差しはカーテンで調節し、自然の風も取り入れやすい設計になっており居心地良く過ごせる工夫がしてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の部屋は洋式と和式の部屋があり、家からは仏壇や家族の写真、椅子など馴染みの物が持ち込まれている。パイプハンガーに何枚もの洋服がかかり、手作りのカレンダーや生花を飾るなど居心地良く過ごせる工夫がしてある。		